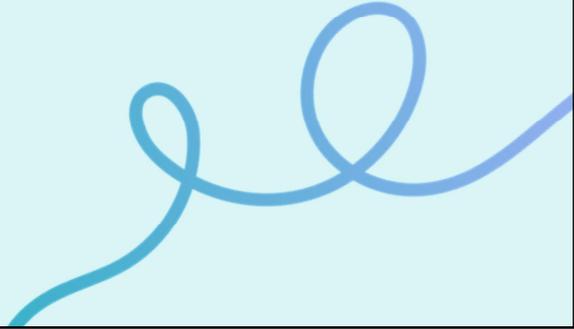


「探究的な学習につながる
幼児教育と小学校教育の接続」



本日のねらい

なぜ、幼児教育と小学校教育の接続が重要なのか、子どもの姿を基に自分の言葉で説明することができる。

 「4月」 小1担任として大切に指導していくこと 

低い

高い

(15分)

 <p>自分の名前が読める。</p> 	 <p>失敗しても諦めずに挑戦する。</p> 	 <p>したいあそびやってみたいことがある。</p> 
 <p>鉛筆を正しくもって書く。</p> 	 <p>友達と折り合いをつける。</p> 	 <p>分からないことがあったら友達や先生に相談する。</p> 
 <p>20までの数が数えられる</p> 	 <p>人の話はだまって聞く。</p> 	
 <p>45分間座ることができる。</p> 	 <p>アナログ時計が読める。</p> 	



就学前教育で大切にしていること



したいあそびややって
みたいことがある。



失敗しても諦めずに
挑戦する。



分からないことがあったら
友達や先生に相談する。



友達と折り合いをつける。



就学前教育で大切にしていること（=非認知能力）について紹介する。

残りのカードは・・・



鉛筆を正しくもって書く。



人の話はだまって聞く。



20 までの数が数えられる



自分の名前が読める。

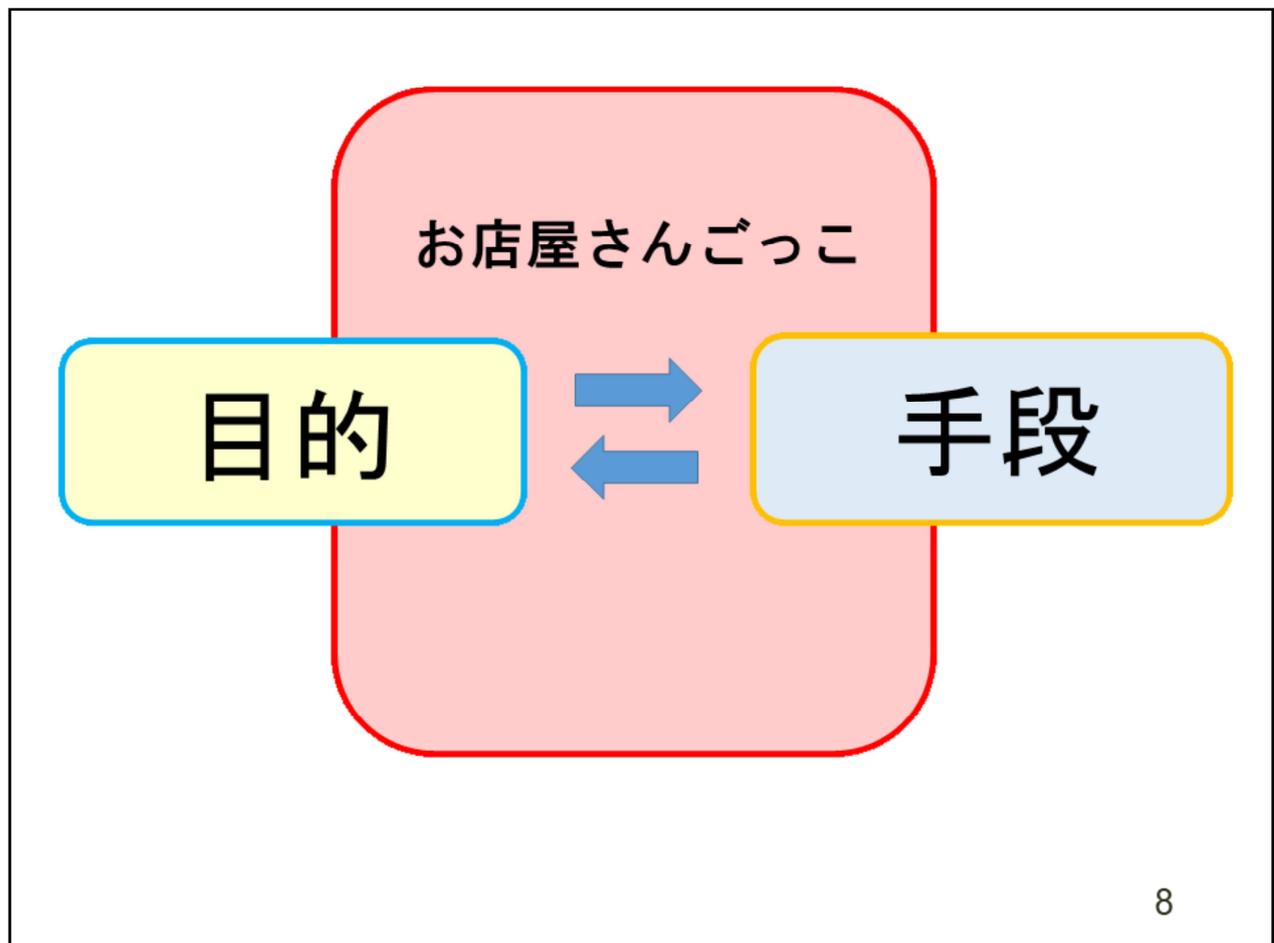


45分間座ることができる。



アナログ時計が読める。





8

お店屋さんごっこを例に「幼児教育のあそびは学びであること」について考える。

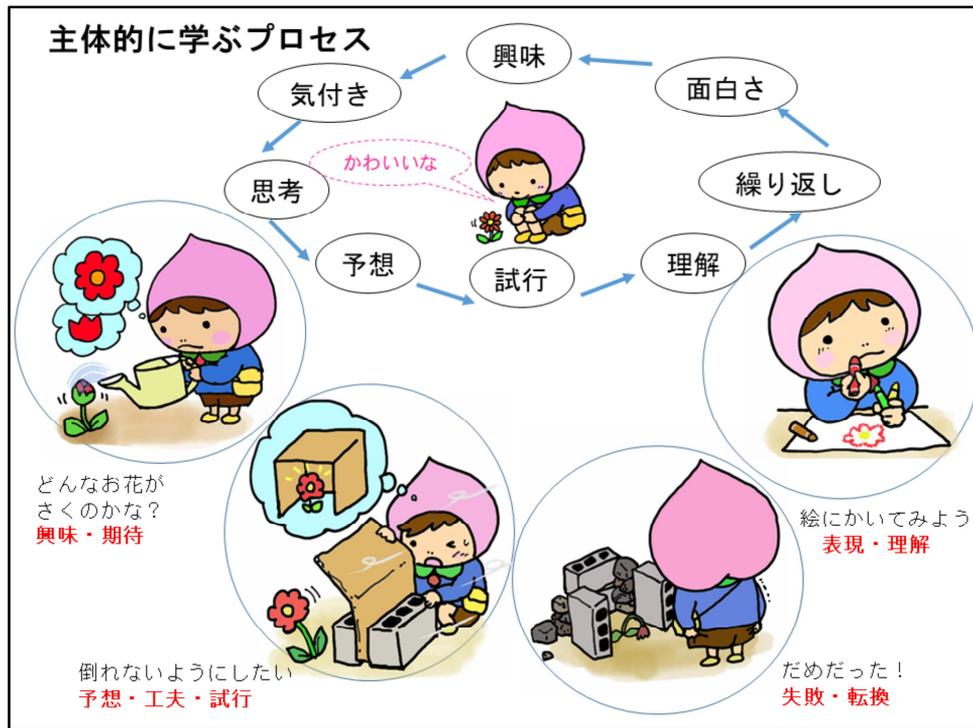
- ・子どもたちの目的・・・お店屋さんごっこ
- ・その実現の向けての手段・・・「どんなお店にする?」「何をどのくらい用意する?」「看板は?他には何があるかな?」と友達と相談しながら目的の達成に向けて活動を進めていく。

この手段が経験であり、学びとなっていく。子どもにとっての手段が保育者の目的やねらいである。

このような幼児期に育まれる学びの芽が小学校の学習につながっていく。



幼児教育の遊びと小学校教育の学びのプロセスも同じ。



(例)

かわいい花に興味をもったもんちゃんは、自ら関わり水やりしたら喜ぶかな、大きくなるかな、と気付きと思考が交錯する。

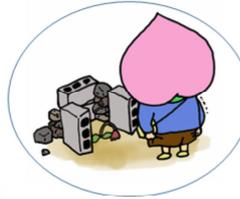
強い風が吹いてきて倒れそうになると、何とかして風から守ってやろうと試行錯誤。しかし、努力むなしく花は倒れてしまい予想したことは失敗してしまう。

その体験から立ち上がり、花を絵にかいて再現しようと表現する気持ちが芽生える、

このような体験からもんちゃんは、たくさんの学びを得て、次の体験に生かされていく。



水やりしよう
おおきなあれ
花の生命 生長



挫折感を味わう
段ボールはだめだ
反省 立ち直り



風のカッてすごい
風よけを作ろう
何が必要かな



どんなお花だったかな
図鑑で見よう
花の名前は？ 花びら何枚

幼児は自分から興味をもったことに関わり、その生態や変化等に気付き、予想しながら考えたことを試してみる。

そのプロセスの中で、そのものの仕組みがわかってきたり、さらに工夫したりして面白さを見いだしていく。**(仕組み—教科として学んでいく内容)**
植物の生態・風のカ—**理科**、 絵にかく—**図工・理科・国語・算数**
学びに向かうカ—愛着、挫折感・失敗感、立ち直る、感情の揺れ、粘り強さ



本日のねらい

なぜ、幼児教育と小学校教育の接続が重要なのか、子どもの姿を基に自分の言葉で説明することができる。

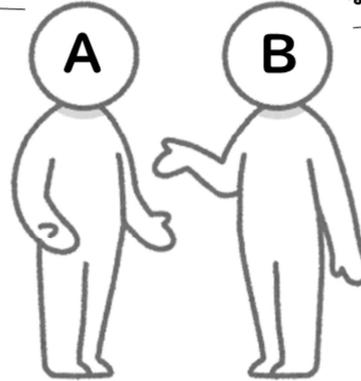
「なぜ接続が重要か」を相手に説明する。

A: 説明する人の役
「接続とは〇〇です。例えば(子どもの姿)…」

B: 幼児教育や接続の重要性を理解していない人の役(小中学校教員や管理職等、自分で設定)

※途中で交代します。

例えば…



なんで?

接続の重要性を各自で整理したのち、3分×2回で交互に説明し合う。

終了後、互いの気づきを共有する。